



あのとときの常呂・写真館

VOL 100

(1986年)

昭和61年7月17日 富丘地区馬頭祭奉納相撲大会

▶富丘地区の馬頭祭に関して、『富丘百年史 拓頌』には「馬頭観世音菩薩」の項で「明治から大正の西川沿の道路は数多くの坂道で、物資の搬出往来には今では考えられない苦難の道であった。物流のすべてが馬により行われるに伴い、事故も続発する。佐呂間道路吉田金作の沢を吉田坂と呼んでいた。この坂で馬の転落死亡事故が多発したため、馬頭観世音菩薩を祀った。この菩薩は事故により亡くなった馬の霊を慰めるために作られたものであり、大正15年9月石碑で建立する。昭和45年6月、神社の移転と同時に馬頭観世音菩薩も神社境内に移した。…毎年7月17日を馬頭祭とし、今は馬ばかりではなく家畜の霊も祀っている」と綴られています。

▶馬頭祭奉納相撲がいつ頃から始まったのかは分かりませんが、富丘小学校の全校児童が参加するようになったのは、現在の場所に移る昭和45年より前の昭和43年です。

(『富丘小学校開校30周年記念誌 しらかば』)

▶写真として残っているもっとも古い昭和61年から順にいくつか紹介します。



*上：富丘神社境内の馬頭観世音菩薩碑



*前のページを含め、
4枚は昭和61年
7月17日に行われ
た馬頭祭の参加者と
奉納相撲のようす

▶このときのように富
丘地区のミニコミ紙「富
丘便り」では、「…ちよう
どこの日は、老人クラブ
のゲートボールと小学校
の参観日が重なり、大勢
の観衆だったので、とて
も盛大で、子どもの相撲
も力が入っていました」
と紹介しています。



*このページの3枚は、昭和63年7月17日の馬頭祭奉納相撲



*このページの3枚の写真は、平成元年7月17日の馬頭祭奉納相撲です。



*左

この年の8月に完成するプールの建設工事をしているようすが分かります。

*右

地域の人たちがこぞって子どもたちの相撲を見ている。地域にとって大切な行事だったことが分かります。



*左

富丘小学校開校30周年記念誌のタイトルは「しらかば」。その記念誌の表紙を飾っている白樺を背景に行われている相撲大会は、富丘小学校ならではの光景。

*富丘小学校は平成12年3月20日に休校となりますが、この写真は、平成10年7月17日の奉納相撲のようすで、常呂図書館が保存している最後の奉納相撲の写真です。



▶馬頭祭の写真としては、平成6年7月17日のものが式全体をとらえているので紹介します。

